

## 1 本体およびプリンターの電源ON

## 2 被検者情報の入力

必要に応じて「ID」ボタン①を押し、被検者情報画面を表示します。  
キーボードまたはバーコードリーダー等で被検者情報を入力して、「OK」ボタン②を押します。

※ 外部装置にデータを出力する場合やUSBメモリにデータを保存する場合は、被検者IDの入力は必須です。



## 3 被検眼の設定

測定画面の「R/L」ボタン③を押して、被検眼を選択します。

## 4 検査条件の設定

「FREEZE解除」ボタン④を押してフリーズ状態を解除し、各種検査条件を設定します。

主な設定項目とその機能は、以下の通りです。

- **トータルゲイン** 20-80dB  
画像全体のエコーの感度を設定します。
- **ダイナミックレンジ** 30-70dB  
画像のダイナミックレンジを調整します。
- **ニアゲイン** 1~60step  
前眼部付近の反射エコーの感度を設定します。
- **ベクターA**  
ONにすると、ベクターAラインとベクター波形を表示します。
- **スムージング**  
個々の画面のつながりを滑らかにする機能です。
- **ハーモニック**  
超音波の高調波成分を抽出して画像化する手法です。  
方位方向の分解能が向上します。
- **スコープ**  
画像の表示深度を変更します。標準42mm/ワイド54mm
- **画質設定**  
ハイコントラスト／主に網膜などの観察に適しています。  
ワイドダイナミックレンジ／主に硝子体内の混濁や出血などの観察に適しています。



④



このシートには、通常の使用における必要最低限の項目しか記載されていません。  
各種機能の詳細な設定、操作および注意事項につきましては、取扱説明書をお読みください。

## 5 超音波像の取得

プローブの接眼部に超音波ジェルを十分に塗布して被検眼に眼瞼上から当て、各種ゲイン調節ボリュームまたは「画質設定」ボタン⑤でゲインを調整します。

画像を取込む場合は、「FREEZE」ボタン⑥を押すか、または、フットスイッチを踏んでフリーズ状態にします。

## 6 取得画像の選択

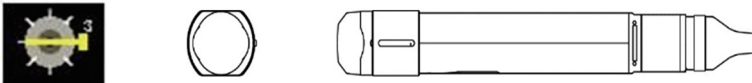
フリーズ状態になった時点から遡って10秒分の画像を一時的に記憶しています。繰り返し動画像で確認できるだけでなく、この中から静止画像を切り出すこともできます。

動画像で確認する場合は、「▶/再生」、「▶/コマ送り」、「◀/コマ戻し」、「▶▶/早送り」、「◀◀/早戻し」の各ボタン⑦を押して動画再生を行います。

## 7 プローブアイコンの表示

「プローブアイコン」ボタン⑧を押して選択画面⑨を表示し、プローブを当てた角度を設定します。

「プローブアイコン」は超音波像の左下に表示します。



## 8 プリントアウト／データ保存／データ出力

超音波像を印刷する場合は、「外部」ボタン⑩を押してプリントアウトを行います。USBメモリに保存する場合は「保存」ボタン⑪を押して保存します。また、超音波像を外部装置にデータ出力する場合は、「Export」ボタン⑫を押してデータ出力を行います。

## 9 他眼への切替え／新患準備

他眼の検査を行う場合は、画面上部両端の「R/L」ボタン⑬を押して切替えます。

また、次の被検者を検査する場合は、「新患」ボタン⑭を3秒以上押して、前の被検者情報、取得超音波像を消去してください。

